

# 蕪崎市子ども読書活動推進計画

生きる力を育成するまち



平成26年3月  
蕪崎市教育委員会

# 目 次

はじめに

第1章	子ども読書活動推進計画策定の趣旨	1
	1 子ども読書活動推進の意義	1
	2 子ども読書活動推進計画策定の背景と基本的な考え方	1
	(1) 国・県の動向	
	(2) 計画策定の目的	
	(3) 基本方針	
	(4) 計画の実施期間と対象	
第2章	韮崎市の子どもの読書の状況	4
	1 幼児の保護者の状況	4
	2 小中学校の児童生徒の状況	6
	3 市立図書館利用者の状況	8
第3章	子どもの読書活動推進のための方策	10
	1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進	10
	2 保育園・幼稚園・児童センター等における子どもの読書活動の推進	12
	3 学校における子どもの読書活動の推進	13
	4 市立図書館における子どもの読書活動の推進	15
第4章	普及啓発及び推進体制の整備	19
	1 普及啓発活動	19
	2 各種情報の収集・提供	19

参考資料	21
------	----

- ・読書アンケート調査票
- ・読書アンケート集計結果
- ・子どもの読書活動の推進に関する法律
- ・韮崎市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱
- ・韮崎市子ども読書活動推進計画策定委員会名簿

## はじめに

今日の子どもたちは、通信・映像メディアの発達や物質的な豊かさに影響を受け、内面的な成長が追いつかない状態に陥りがちです。このような状況にあっても、子どもたちは自分の力で現在と未来を生きていく力を身に付けようとするたくましさを持っています。そこには、いつの時代でも旺盛な好奇心と、先人の知恵を求める子どもの心があるからです。

知識欲という積極的な動機が働くとき、多くの子どもたちは読書という方法にたどり着きます。かけがえのない一冊の本との巡り合い、見知らぬ世界を疑似体験する興奮、人間の優しさに涙する等、読書をとおして得られる喜びを味わえる環境が身近に存在することを祈らずにはられません。

蕪崎市では、市内のすべての子どもが本を読む楽しさを知り、自主的に読書できるよう、さまざまな読書環境を整備するためにこの計画を策定しました。策定にあたりましては、「蕪崎市子ども読書活動推進計画策定委員会」の委員であります蕪崎市立図書館協議会委員の皆様や、多数の市民の皆様からご意見をいただきながら検討を進めてきました。ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

今後、市では、この計画に基づいて市民の皆様、関係機関の皆様と連携を図りながら、読書活動推進のための具体的な取組を進めてまいります。子どもが本との素晴らしい出会いができますよう、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成26年3月

蕪崎市教育委員会  
教育長 矢巻 令一

# 第1章 子ども読書活動推進計画策定の趣旨

## 1 子ども読書活動推進の意義

読書活動は、国の計画にもあるとおり、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

子どもは、読書を通じて読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。また、書籍や新聞、図鑑等の資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる知的探求心や真理を求める態度が培われます。このため、子どもが自ら読書に親しみ、読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら自主的な読書活動を推進することが重要です。

また、読書は、子どもが自ら考え、自ら行動し、主体的に社会の形成に参画していくために必要な知識や教養を身に付ける重要な契機となります。特に、社会が急激に変化し、複雑化していく中で、個人が読書活動等を通じて、生涯にわたって絶えず自発的に学ぼうとする習慣を身に付けていくことは大変重要です。

読書は、子どもの知的好奇心に応え、感性を高め、想像力を育ててくれます。子どもは読書を楽しみながら、広い世界を知り、生きている喜びに満たされます。そして、いろいろなことを感じ取る力や自ら考え行動することのできる人間へと成長していきます。

このように大切な子ども時代の読書環境を整備することは、重要で意義のあることです。

## 2 子ども読書活動推進計画策定の背景と基本的な考え方

### (1) 国・県の動向

平成14年8月、政府は「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（「第一次基本計画」）を定め、その後平成20年3月には第一次基本計画の成果を踏まえた第二次基本計画が策定されました。そして、学校段階が進むにつれて子どもの読書離れが顕著になる傾向が改善されていない等の課題を踏まえ、平成25年5月に第三次基本計画を定めました。その中で、平成24年度に（社）全国学校図書館協議会の学校読書調査の結果によると、1か月に1冊も本を読まなかった「不読者」の割合（不読率）は、小学生4.5%、中学生16.4%、

高校生 53.2%と、依然として学校段階が進むにつれ読書離れが進む傾向にあり、今後 10 年間で不読率を半減させることを目標にするとあります。（※平成 25 年度の調査では、小学生 5.3%、中学生 16.9%、高校生 45.0%でした。）

また、山梨県においても、平成 16 年 3 月に策定した「やまなしの教育基本計画」の中に子どもの読書活動の推進を位置づけ、その実施計画として、山梨県の状況を踏まえ子どもが自主的に読書活動に取り組むことのできる環境を整備することを目指し、平成 17 年 3 月に「山梨県子ども読書活動推進実施計画」（第 1 次実施計画）を策定し、家庭、地域、学校等の担うべき役割を示しました。平成 21 年 2 月には、「ふるさとを愛し、世界に通じる人づくり」を基本理念とする「やまなしの教育振興プラン」が策定されました。平成 24 年 3 月には、第 1 次実施計画期間における取組と、成果と新たな課題を整理し、基本施策を見直した「第 2 次実施計画」が策定されました。

## （2）計画策定の目的

今日、子どもを取り巻く社会状況は、少子化、情報化、国際化が進んだことにより、急激に変化しています。特に情報化の進展はめざましく、インターネットや携帯電話、多機能携帯電話（スマートフォン）等の普及により、様々な情報が簡単に入手できるようになったために子どもの生活環境が大きく変化し、非常に便利になった反面、他方では読書離れの一因ともなっているのが現状です。

しかし子どもを取り巻く状況が変わっても、子どもの読書活動は、その後の長い人生を生き抜くための支えのひとつとなるべきもので、欠くことのできない重要な活動です。

韮崎市は、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び県の「子ども読書活動推進実施計画」を基本として、本市の読書活動の推進の状況を踏まえ、本市においても子どもの読書活動を総合的・計画的に推進するため、「韮崎市子ども読書活動推進計画」を策定します。

## （3）基本方針

子どもの読書活動の推進に関する法律、第 2 条の基本理念の中で「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」とされています。

このことから韮崎市は、すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所で自主的に読書活動を行うことができるよう、市と市民が協働して子どもの読書環境の整備を進めるために次の 4 項目を計画の基本方針とします。

①家庭・地域における子どもの読書活動の推進

乳幼児期から読書に親しめる環境をつくるため、家庭や地域で取組に努めます。

②保育園・幼稚園・児童センター等における子どもの読書活動の推進

乳幼児や児童の発達段階や年齢に応じた読書活動の取組に努めます。

③学校における子どもの読書活動の推進

児童・生徒の年齢や学習・興味に応じた読書活動の取組に努めます。

④市立図書館における子どもの読書活動の推進

専門スタッフによるサービスや充実した図書館資料を提供するとともに、学校図書館や家庭・地域等での読書活動への支援に努めます。

(4) 計画の実施期間と対象

この計画に定めた各施策の実施期間は平成26年度から概ね5年間とします。

また計画対象は0歳から概ね18歳までとします。



## 第2章 韮崎市の子どもの読書の状況

韮崎市子ども読書活動推進計画の策定にあたり、韮崎市の小中学生・保護者等の読書活動の実態を把握するため、平成25年7月から9月の間、以下のとおり読書アンケート調査を実施しました。

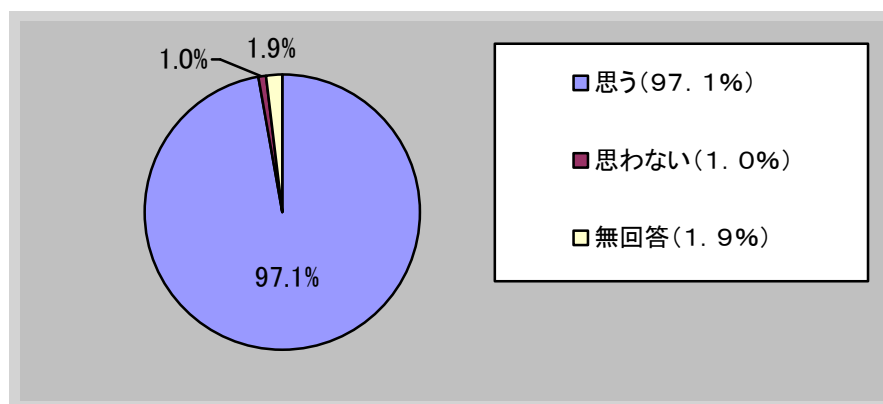
### アンケート実施状況

- ・保護者への読書アンケート調査（1歳6か月検診・2歳児のびのび教室参加の103人）
- ・小学生への読書アンケート調査（5校の5・6年生 287人）
- ・中学生への読書アンケート調査（2校の1～3年生 193人）
- ・保護者への読書アンケート調査（市立図書館来館の105人）
- ・小中高学校図書館での読書調査（7校）

### 1 幼児の保護者の状況

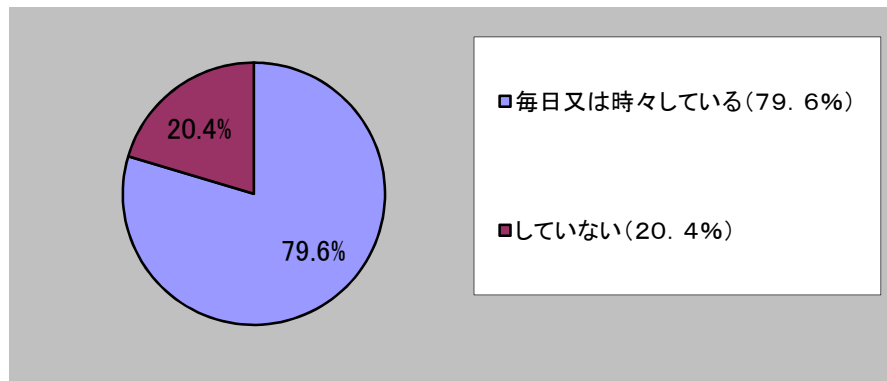
市保健福祉センターへ健診等で訪れた1歳6か月児と2歳児の保護者のうち、計103人から回答がありました。主な集計結果については以下のとおりです。

- 設問：お子さんに絵本の読み聞かせをすることはよいことだと思いますか



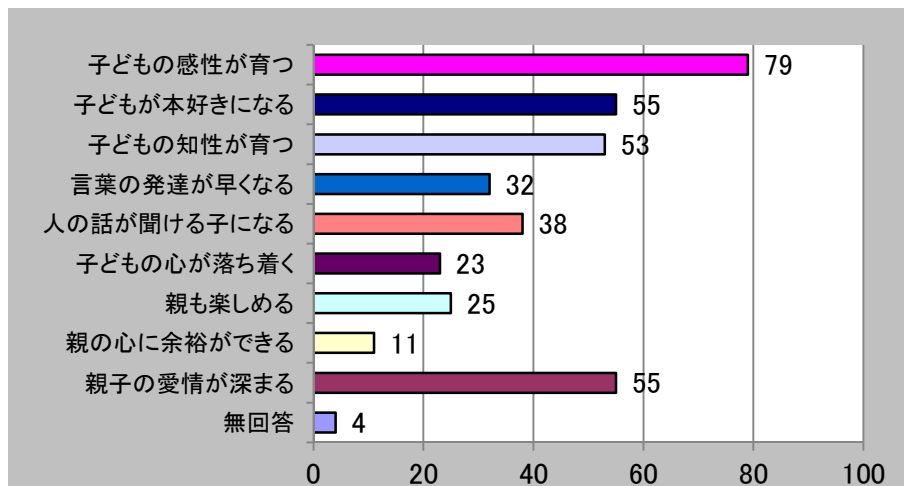
グラフ1 保健福祉センターでのアンケート「幼児の保護者」

●設問：現在、お子さんに読み聞かせをしていますか



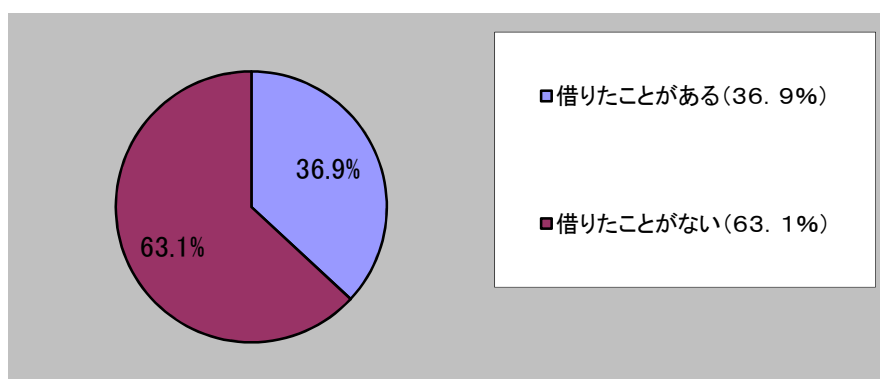
グラフ2 保健福祉センターでのアンケート《幼児の保護者》

●設問：絵本の読み聞かせにどんな効果を期待していますか（複数回答可・計375件）



グラフ3 保健福祉センターでのアンケート《幼児の保護者》

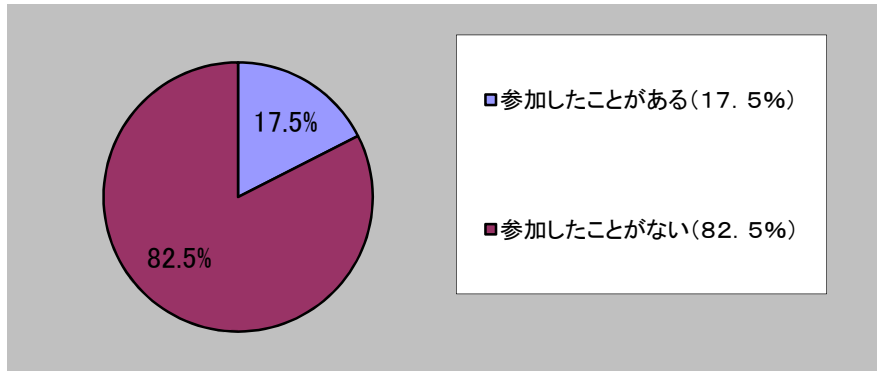
●設問：韮崎市立図書館で子どものために絵本等を借りたことがありますか



グラフ4 保健福祉センターでのアンケート《幼児の保護者》



- 設問：韮崎市立図書館の「だっこの会」や「おはなし会」（23ページ「※2」参照）に参加したことがありますか



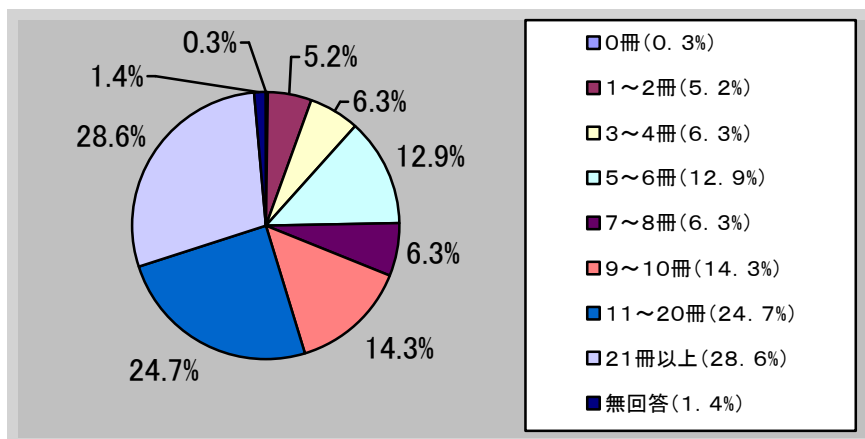
グラフ5 保健福祉センターでのアンケート《幼児の保護者》

グラフ4・5の結果から、市立図書館の利用があまり多くない状況が見てとれます。これは、新図書館が開館してまだ2年と日が浅く、図書館の利用が生活の一部になっていないことや、図書館は静かにしなければならないというイメージにより、来館しにくいと感じている人がまだまだ多くいるためではないかと思われます。今後も継続的に状況把握に努め、乳幼児のお子さんを持つ保護者の方たちに市立図書館をもっと利用してもらうための方策を考えていく必要があります。

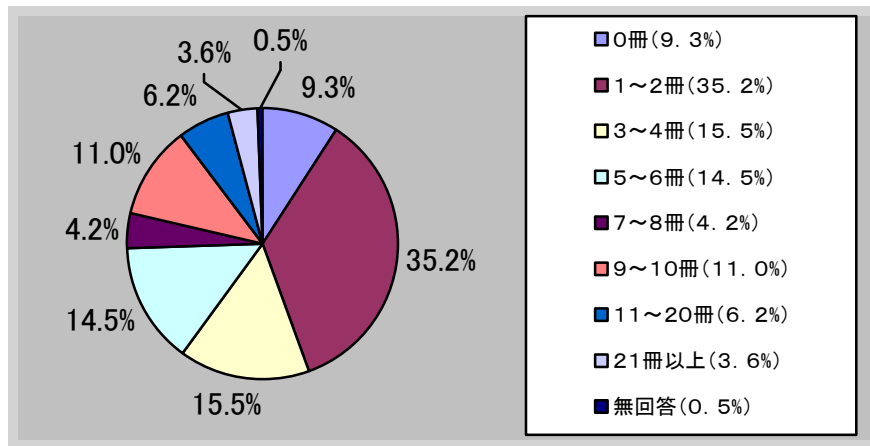
## 2 小中学校の児童生徒の状況

市内小中学校（小学校5・6年生及び中学校～3年生対象）で、任意に選んだ学級において行った読書アンケート調査では、計480人から回答がありました。

- 設問：あなたは1か月に本を何冊読みますか（冊数を記入）



グラフ6 小中学校でのアンケート ①小学校5・6年生



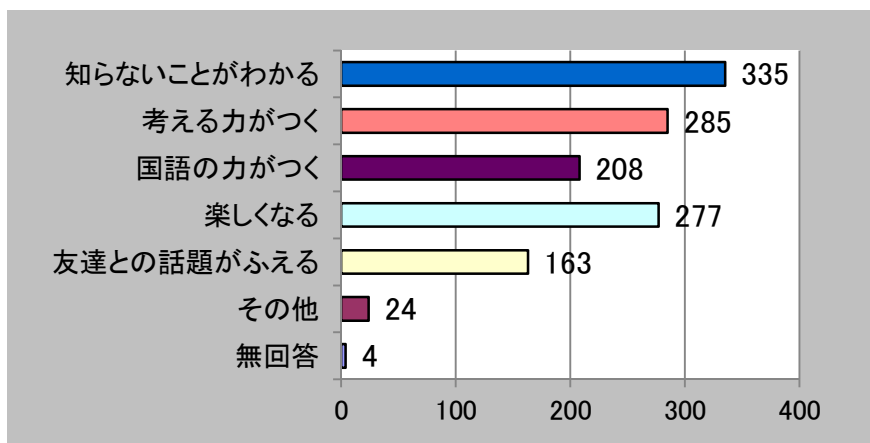
グラフ7 小中学校でのアンケート ②中学校1～3年生

回答者全体で見ると、1か月に読む本の冊数で一番多かった回答（冊数での回答）は「2冊以上」でした（480人中89人、18.5%）。

さらに小中学校を別々に見るとかなり異なる傾向が表れました。

小学生では1冊以上読む児童が全体の53.3%（153人）を占めていますが、中学生では逆に2冊以下の生徒が44.5%にのぼりました（86人）。この質問では学年が上がるほど読む本が減っていく傾向が裏付けられました。

●設問：あなたは読書の大切さは何だと思えますか（3つまで選択・計1296件）



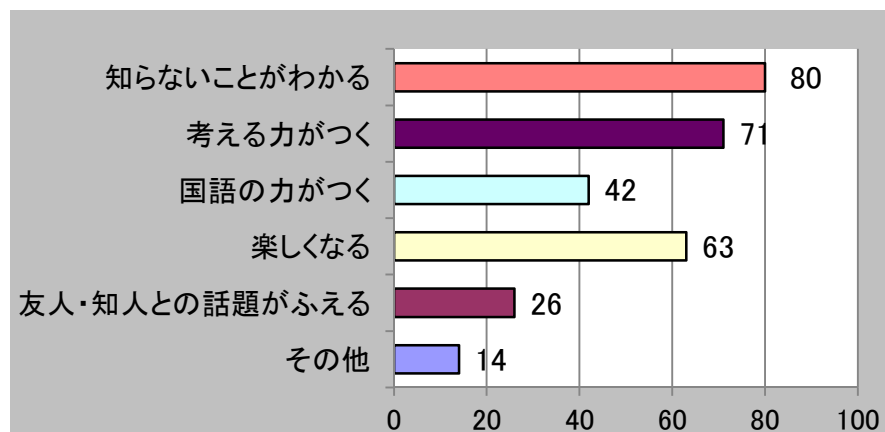
グラフ8 小中学校でのアンケート

この質問では、小中学生とも、上から「知らないことがわかる」「考える力がつく」「楽しくなる」の順でした。3位に「楽しくなる」が入ったことは、読書することによって知識や教養が身に着くばかりでなく、情緒的な面での効果もあると言えます。

### 3 市立図書館利用者の状況

市立図書館で子どものいる保護者へ行ったアンケートでは、計105人から回答がありました。

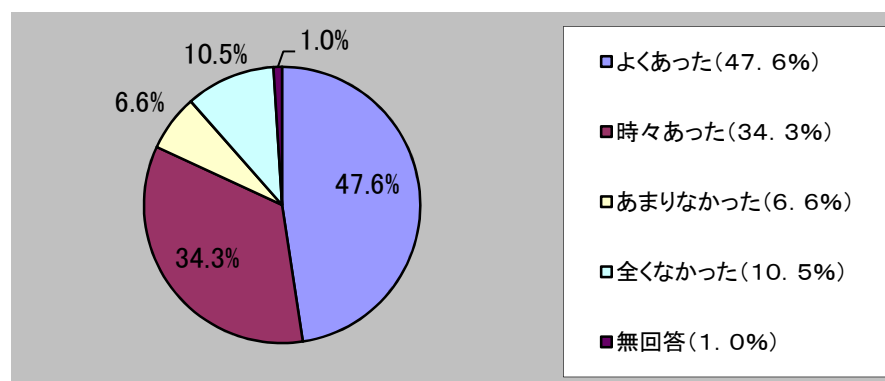
●設問：あなたは読書の大切さは何だと思えますか（3つまで選択・計296件）



グラフ9 市立図書館でのアンケート《一般》

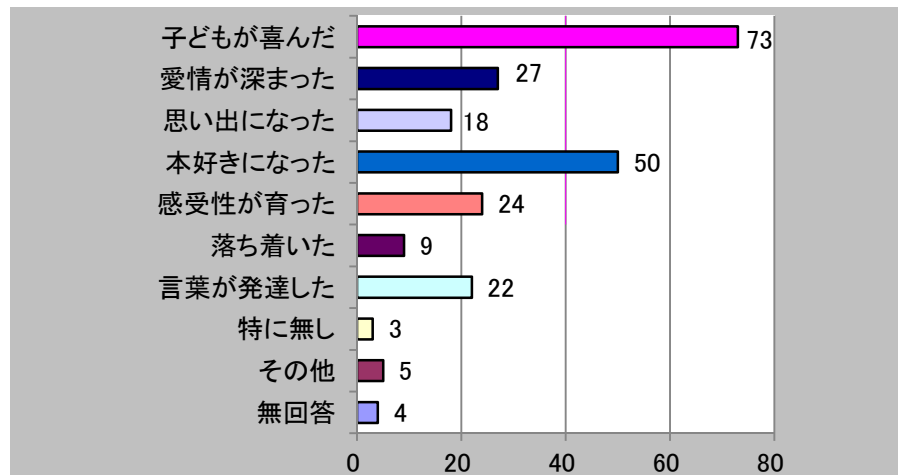
小中学校のアンケートと同じ質問では、一般の1位も小中学校同様「知らないことがわかる」になりました。2位3位も同じで、「考える力がつく」、「楽しくなる」になりました。子どもも大人も、読書の大切さは何かという根本的な意義については、同じように考えていることがわかりました。

●設問：子どもに本を読んであげたことがありますか（1つだけ選択）



グラフ10 市立図書館でのアンケート《一般》

●設問：読み聞かせをして良かったと思ったことは何ですか（3つまで選択・計 235 件）



グラフ 11 市立図書館でのアンケート《一般》

この質問の回答で一番多かったのは「子どもが喜んだ」、次いで「本好きになった」、続いて「愛情が深まった」でした。先の保健福祉センターでのアンケートの「読み聞かせにどんな効果を期待するか」という質問には、1位に「子どもの感性が育つ」、次いで「子どもが本好きになる」「親子の愛情が深まる」という順位で効果を期待されていました。

この質問の結果は、それがほぼ期待通りになったことを裏付けています。しかし「本好きになった」「感受性が育った」「言葉が発達した」というような“良い効果を得られた”項目を抑えて「子どもが喜んだ」という項目が1位になったことは、親から子への読み聞かせの本来の意義である「本を介して親子が心触れ合う時間を持つ」ということが、親が良かったと感じることで実現できていると言えます（グラフ 11 参照）。

以上のようなことから、子どもが小さいうちから、各家庭で大人と子どもと一緒に読書する時間を持つ等、日常生活の中に読書が定着していくような働きかけが大事になっています。



## 第3章 子どもの読書活動推進のための方策

### 1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

#### 【現状と課題】

蕪崎市保健福祉センターにおいて、1歳6か月児健診と2歳児育児教室に参加した保護者にアンケート調査した結果、「子どもに絵本の読み聞かせをすることはよいことだと思いますか」という設問では97%の保護者が「思う」と回答し、約80%の保護者が現在、「毎日又は時々」読み聞かせをしていると回答しました。「読み聞かせにどんな効果を期待していますか」という設問では、1位が「子どもの感性が育つ」（約21%）、次いで「子どもが本好きになる」「親子の愛情が深まる」（どちらも約15%）という結果になりました。乳幼児への読書活動は子どもの成長に良い影響を及ぼすと保護者も考えていることがうかがえます。しかし、「蕪崎市立図書館で子どものために絵本等を借りたり、乳幼児向けの定例おはなし会に参加したりしましたか」という設問に対しては、「ない」と回答した保護者がそれぞれ63%、82%にのびりました（巻末の「読書アンケートの集計結果について」参照）。保護者や他の家族の読書に対する姿勢が、子どもの読書習慣に大きく影響すると考えられるので、いかにして家庭内で読書環境を整え、図書館等に乳幼児期の親子を呼び込むかが課題になります。

#### 【具体的な取組】

現在の子どもは、生まれた時からすでにテレビ、ゲーム、携帯端末等の強いイメージを持つ映像文化にさらされ、言語能力、表現能力の低下が懸念されています。保護者が静かな環境で優しく語りかけることや、読み聞かせの声やぬくもりを通して子どもは愛情を感じ取り、言葉を学ぶだけでなく、コミュニケーション能力をも身に付けていきます。週に1日はテレビを消して、家族の絆づくりを目的として、家族で本を読み、その本について家族で話し合う「家読（うちどく）」を実践し、家族のコミュニケーションを豊かにすること等も、子どもの良い読書習慣につながるでしょう。このような活動は、一朝一夕に成し得ることではないので、長期を想定した取組が必要になります。

また、家庭に少しでも本のあるスペースを設け、自由に本と触れ合える環境づくりを心がけたり、公立図書館をはじめ地域社会の読書環境を備えた施設を利用したりする等して、子どもの幅広い読書への興味と読書習慣を培う努力が必要です。

### (1) ブックスタート事業の実施

この事業は、荊崎市が行う11か月児親子教室「よちよち教室」の際に、すべての赤ちゃんに本を一冊プレゼントし、本に出会うきっかけを提供し、本を仲立ちとして、親子のコミュニケーションを豊かに育むことが目的です。市内の赤ちゃんがもれなく受けられるよう、よちよち教室に必ず参加するように保護者にもPRしています(22ページ「※1」参照)。

荊崎市は平成14年(2002年)から「よちよち教室」に参加する親子の待ち時間を使って、この事業を開始しました。「よちよち教室」開催時、保健師・保育士・司書が選んだ一冊の絵本と、お奨めのブックリスト、図書館の利用案内等を渡します。また会場には、保護者の方に、これからの本選びの参考にしてもらうため、選定にのぼった他の絵本も展示しています。子育て期間中に積極的に読み聞かせに取り組んでもえるように、これからもブックスタート事業を継続していきます。

### (2) 各種おはなし会や子どもの読書に関する研修会等への参加

① 市立図書館が主催する子ども向けのイベントの開催により、親子を図書館に誘い、子どもの読書環境に関する情報の提供により、研修会等への参加を促進します。

#### ア だっこの会(乳幼児向けおはなし会)

0~2歳頃の子を持つ親子を対象にしたおはなし会を開催し、参加した保護者に子育てに活かせる赤ちゃん絵本の読み聞かせや、わらべうた、手遊び等について学べる機会を提供します。

#### イ おはなし会、図書館祭り、クリスマス会

3歳頃~小学校低学年向けに行われるおはなし会等に参加し、どのような本が子どもに好まれるのか、お奨めの本は何かを、子どもの反応等を見ながら学ぶことができ、また、親子で楽しめる手遊び等も体験できる場を提供します。

② 図書館が主催する大人向けのイベントへの参加を促進し、読み聞かせの実践方法を身に付ける場を提供します。

#### ア 読み聞かせ講座

子どもの成長や興味に合った本の選び方、読み聞かせ方等に理解・関心を深めてもらうため、読み聞かせ講座への積極的な参加の促進に努めます。

### (3) 地域の読書支援施設の活用

市立図書館から団体貸出(視聴覚資料を除く図書館資料を1回に100冊以内、30日以内で借りられるサービス)される本を利用したおはなし会等を開催できるコミュニケーションの場として、子育て支援センター、保健福祉センター、児童センター、公民館等の活用を

促進します。

#### (4) 本のコーナーの設置

各家庭において、読書習慣の定着が図られるよう、子どもが本と出会い、本に親しめるようなスペースを少しでも設け、子どもが自由に本と触れ合えるような環境づくりを推進します。

## 2 保育園・幼稚園・児童センター等における子どもの読書活動の推進

### 【現状と課題】

子どもたちは成長するに従って、生活の場所が広がっていきます。平成25年度末現在、蕪崎市には9つの市立保育園（1園休園）、3つの私立幼稚園、4つの児童センターと1つの放課後子ども教室があります。これらの園や施設を利用する子どもたちは、読書を楽しみながら本に親しんでいく大切な時期にあります。子どもたちが長い時間過ごすこれらの場においては、特に読書環境の充実が求められます。

現在、市立図書館の団体貸出や「おでかけ子ども図書館」（事前に図書館へ申込み、図書館スタッフやボランティアが施設に出向き、読み聞かせ等をするサービス）の利用については、保育園が中心で、児童センターや放課後子ども教室、幼稚園の更なる利用が望まれます。

### 【具体的な取組】

#### (1) 保育園・幼稚園・児童センターでの読書活動推進のための取組

##### ① 図書コーナー、読書コーナーの充実

ア 市立図書館の団体貸出を積極的に利用します。

##### ② 読書の時間の設定

園児や児童が絵本やお話、紙芝居に親しみ、読書の楽しさに出会えるようにします。

ア 市立図書館のスタッフや図書館ボランティアを活用し、紙芝居や読み聞かせ等の時間を設けます（→「おでかけ子ども図書館」の利用）。

イ 朗読サークルや読み聞かせボランティアを活用し、読書の時間の充実を図ります。

#### (2) 保護者との連携・協力

① 各園・施設では、園児や児童の保護者に対して、定期的に子どもの読書に関する情報を発信します。

- ② 各園・施設では、園児・児童の保護者に対して、読書ボランティア育成のため、読書ボランティア養成講座等の情報を提供します。



おでかけ子ども図書館の様子（穴山保育園）

### 3 学校における子どもの読書活動の推進

#### 【現状と課題】

韮崎市には5つの市立小学校、2つの市立中学校、2つの県立高等学校、2つの県立特別支援学校（1つは分校）があり、市内の全小中学校では、学校図書館図書標準を達成しています。これらの学校は、子どもが読書習慣を形成していく上で、かけがえのない大きな役割を担っています。これまで、市内の小中学校では、授業やささまざまな分野で読書を推進し、読書が習慣として身に付くような取組を行ってきました。朝の読書活動（朝読）や読書の時間を設けての一斉読書、教職員・読書ボランティア等による読み聞かせ等です。

市内の小中学生のアンケートによると、読書を「好き」、「どちらかといえば好き」と答えたのが、小学生では89.5%、中学生では72.6%という結果が出ていますので、市内の小中学生は概ね読書を好きであることがわかります。

しかし、全国や山梨県の傾向と同様に、韮崎市においても、高学年や中学生になるほど、授業時間の増加や部活動、塾通い等で時間的余裕がなくなり、読書量が減少する傾向にあります（巻末の「読書アンケート集計結果」内の「2 小中学校でのアンケート調査…」、設問「1か月に本を何冊読みますか」参照）。

生涯にわたる読書の習慣化を身に付けるためにも、とりわけ、高学年の児童及び中学生、高校生世代の読書意欲を高め、読書活動を促す取組を進めることが重要な課題となっています。



## 【具体的な取組】

### (1) 学校での読書活動推進のための取組

- ① 学校図書館利用のためにオリエンテーションを実施します。
- ② 朝の読書や読み聞かせ、一斉読書等を継続的に行い、読書の習慣化に努めます。
- ③ 各教科の授業や総合的な学習等の調べ学習を通し、様々な資料の活用方法が身に付くような取組に努めます。
- ④ 保護者や図書館ボランティアとの協働による読み聞かせを実施します（「おでかけ子ども図書館」の活用等）。
- ⑤ 図書委員会活動の活性化に努めます。
- ⑥ 年2回の読書週間中の行事（図書集会やおはなし会等）を実践します。
- ⑦ 学校と家庭との連携を取りながら、親子読書を推進します。
- ⑧ お薦め本や各教科関連図書のブックリストを作成・展示し、紹介することにより、読書活動の促進に努めます。

### (2) 学校図書館の整備・充実

- ① 児童生徒の学習や興味・関心に応えられるような内容の蔵書を揃え、図書資料を計画的に整備・充実に努めます。
- ② 学校図書館の施設や設備を整備し、読書活動や調べ学習等により適した環境づくりに努めます。
- ③ 児童生徒がより利用しやすい学校図書館作りのための館内レイアウト、サイン、配架、展示、掲示等に努めます。
- ④ 児童生徒の要求にきめ細かく応じるため、司書教諭（司書教諭の講習を修了した、学校図書館の専門的職務を担う教諭）・図書館主任・学校司書等が協力し、学校図書館を円滑に運営できる体制づくりを進めます。
- ⑤ 図書資料を効率的に利用するため、学校図書館間や市立図書館との連携を図ります。

### (3) 保護者との連携・協力

- ① 各学校において、児童生徒の保護者に対し、定期的に子どもの読書に関する情報を発信します。
- ② 各学校では、児童生徒の保護者に対して、読書ボランティア育成のため、読書ボランティア養成講座等の情報を提供します。

## 4 市立図書館における子どもの読書活動の推進

### 【現状と課題】

子どもの読書活動を推進するためには、子どもが読書活動をより身近に感じられる環境を整備することが重要です。本市におきましても、平成23年9月に駅前の市民交流センター（通称ニコリ）の中に新市立図書館がオープンしました。これまでの狭隘な図書館から、市民の読書活動の拠点に相応しい、多機能を備えた広々とした図書館に生まれ変わりました。

読書は、人間形成に大きな影響を与え、自己実現を図る上で、極めて貴重な糧となるものです。図書館は、子どもの発達段階に適した本との出会いを提供する役割を担っています。

そのためには、図書館がこの計画の核になる必要があります。読書は極めて個人的な行為ですが、これから成長していく子どものために大人がすべきことは、読書環境を整備することです。「良書」と、それを適切な段階で子どもに手渡す「人」が要件といえます。

市内の子どもたち一人一人が格差なく読書生活を享受できるよう読書環境を整えるために、各年代、興味の多様な子どもたちに対応できる各種資料を充実させる必要があります。

また、「1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進」の「現状と課題」の項で述べたとおり、乳幼児期の親子の市立図書館の利用促進も重要な課題のひとつといえます。

今後も継続的に利用者ニーズの把握に努め、市立図書館の利用率を更に上げるための方策を考えていく必要があります。

### 【具体的な取組】

#### (1) 図書資料の充実

市立図書館は、子どもの読書活動推進の中核的な役割を果たすべき施設であり、子どもが読みたい本を豊富な図書の中から選択し、読書に親しみ、さまざまな知識を身に付ける場所です。子どものニーズを的確に把握し、点字本、大活字本も含め、子どもの読書活動を支援するための豊富な蔵書の整備が望まれます。

市立図書館の蔵書は、現在 120,226 点あり（平成25年11月末の点数）、その中で児童書（絵本・紙芝居含む）は 34,079 点で、蔵書全体に占める割合は約 28.3%となっています。収蔵能力は開架・閉架合わせて 16 万冊分以上あるので、計画的な図書資料の充実に努める必要があります。

また、市内の公共施設に図書を貸出す「団体貸出」の利用を促進し、身近な場所で図書に親しめる機会をつくります。

## (2) 図書館スタッフのサービス研修

折りに触れ、図書館の環境整備の主役となるスタッフの各種研修への参加によりスキルアップを図り、カウンター対応・選書等において、スタッフ間で共通認識を持ち、子どもたちからのさまざまな質問や要望に対応できるよう利用者サービスの向上に努めます。

## (3) 乳幼児対応

### ① ブックスタート事業

毎月1回、11か月の赤ちゃんと保護者に向け、ブックスタートのメッセージを伝えながら絵本をプレゼントします。そこで、温かい言葉かけの大切さや、心のこもった言葉にあふれた絵本を介して、楽しいひとときを共有することで赤ちゃんの心を育てること等を保護者に伝えると同時に、わらべうた遊びや読み聞かせの実演等も行います。

ブックスタート事業は単なる配本事業ではなく、絵本の読み聞かせを通じて「こころ」の成長を支援しようという目的を持つものであり、読書の楽しさを知り、ひいては図書館利用促進に繋がっていくことを願うものです。

### ② だっこの会（月に1回開催）

ブックスタートに続き、図書館では、0～2歳頃の乳幼児向けおはなし会を行っています。これからも、図書館スタッフとボランティアによる、わらべうたやお話を提供することにより、ゆったりとした親子の対話の時間をつくり、絵本の楽しさを伝えていきます。



だっこの会の様子（市立図書館）

#### (4) 幼児・小学校低学年への対応

##### ① おはなし会（月に1回開催）

図書館スタッフとボランティアにより、絵本の読み聞かせ、手遊び、紙芝居等、さまざまな手法でお話の世界を提供しています。

##### ② 図書館祭り・クリスマス会等のイベント（年に1回開催）

子ども全般を対象として開催しています。紙芝居、パネルシアター、手遊び等、目から耳から楽しい言葉の世界を親子一緒に楽しむことで、家庭での言葉かけの喜びや、お話の楽しさを知ってもらう機会としています。さらに図書館利用や読書への興味を喚起することもねらいとしています。ボランティアの支援が不可欠なイベントです。



おはなし会の様子（市立図書館）

#### (5) 小学校高学年・中学生及び高校生への対応

① 司書教諭や図書館主任・学校司書との連携により、各学校の教育課程や調べ学習を見越した選書を行い、市立図書館の資料をより信頼の置けるものに充実していきます。また、その資料を駆使した学校の授業や、一人一人の疑問、レファレンス（調査・相談業務）にもきめ細やかに対応していきます。

② 中・高生の体験学習を積極的にサポートし、図書館業務の機能・システムを全般的に理解し、図書館に興味を持てるよう丁寧な対応に努めます。また、朗読会の時間や、朝読・読書集会等への協力・支援を行います。

#### (6) 公共施設への読書支援

読書関連の公共施設（保育園・幼稚園・子育て支援センター・児童センター・保健福祉セ

ンター・公民館等)を拠点とした読書活動の支援に努めます。

市立図書館と離れた地区にあっても、それぞれの施設を身近な読書施設として活用できるよう、各施設の関係者と連携をとりながら、本の団体貸出、「おでかけ子ども図書館」の利用等、地域間格差を削減するような活動を展開します。

#### (7) お薦め図書リストの作成、配布

乳幼児から高校生までの年代別、ジャンル別の優良な図書やお薦め図書のリストを作成し、配布するよう努めます。

#### (8) 子ども読書の日・読書週間等に合わせた事業

子ども読書の日(4月23日)、「子どもの読書週間」(4月23日～5月12日)、「読書週間」(10月27日～11月9日)に合わせ、子どもの読書のきっかけづくりとなるように、館内の展示に工夫を凝らすとともに、読書や図書館に興味を持ってもらえるような魅力あるイベントを開催し、読書への関心を高めるよう努めます。

#### (9) 図書館ボランティアの人材育成

- ① 朗読会等、子どもの読書に関わるボランティアに、一連の読書推進活動に参加してもらえるような仕組みを作ります。
- ② おはなし会等に携わることの多い図書館スタッフとボランティアが、同じレベルで各事業に取り組めるよう、発達段階に適応した選書や、読み聞かせでの心構え等についての研修等を継続的に行っていきます。
- ③ 山梨県子ども読書支援センターの研修会や市立図書館独自の研修会を通じ、ボランティアの人材育成に努めます。



図書館スタッフとボランティアによる読み聞かせ(市立図書館)

## 第4章 普及啓発及び推進体制の整備

子どもたちが自主的に読書に親しみ読書習慣を身に付けるためには、家庭・地域・学校・図書館等に関与する子どもを取り巻く大人たちが、子どもの読書活動の意義に理解と関心を持つことが大切です。

すべての子どもがあらゆる機会と場所において自由に読書ができるような環境整備のため、子どもの読書活動に広く理解と関心が深まるよう、さまざまな機会を通じて普及啓発に努める必要があります。

### 1 普及啓発活動

国では、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、4月23日を「子ども読書の日」と定め、その趣旨にふさわしい事業を実施するよう自治体に求めています。

また、文字・活字文化についての関心と理解を深めるために設けられた「文字・活字文化の日」（10月27日）においても、その趣旨にふさわしい行事の実施を求めています。

これらを受け、市立図書館では、毎年、春の読書週間は子どもを対象に考えた「子どもクイズ」等のイベントを実施したり、子ども向けの館内展示に工夫し、秋の読書週間には、図書館祭りを開催し、古本市（不要となった本の寄贈を受け、希望者に無料配布）や、おはなし会、落語、ミニコンサート等のイベントにより集客し、「子ども読書の日」や「文字・活字文化の日」、更には、図書館への理解と関心を高めてもらえるような活動を実施しています。

今後も、子どもの読書活動を推進するため、さまざまな工夫を凝らし、子どもが読書に親しむ機会の提供に努めます。

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書環境を整えることが必要です。そのためには、子どもの読書について専門的な知識を持つ人の配置が必要になります。市立図書館や学校図書館に専門スタッフを適正に配置し、子どもたちが楽しい読書生活を送れるよう、支援する体制を整えます。

### 2 各種情報の収集・提供

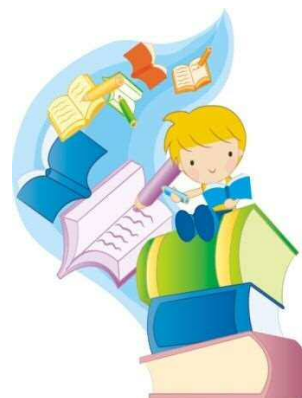
子どもの読書活動の実態や、他の市町村、学校、図書館、民間団体における様々な取組、並びに「家読（うちどく）」（家族読書）や、各自が本を持ち寄って集まり、本の面白さについてプレゼンテーションし合い、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定するという

「ビブリオバトル」（書評合戦）等の先駆的な取組等の子どもの読書活動に関する情報の収集に努め、学校配布資料、市及び図書館のホームページや市の広報、図書館だより「Niralian（ニラリアン）」等を通じ、これらの情報を提供します。

- ◎ 子どもの読書活動を推進するためには、社会全体での取組が不可欠で、家庭、地域、学校、図書館において、それぞれが担うべき役割を果たし、民間団体やボランティアを含め、相互に連携・協力しながら継続的に子どもたちの読書活動を推進していく体制を整備していくことが大切です。今後、平成24年11月にオープンした新山梨県立図書館に設置された「子ども読書支援センター」も十分に活用しながら、地域社会全体で子どもの読書活動の推進に努めます。



クリスマス会の様子（市立図書館）



## 参 考 資 料

- 読書アンケート調査票
- 読書アンケート集計結果
- 子どもの読書活動の推進に関する法律
- 蕪崎市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱
- 蕪崎市子ども読書活動推進計画策定委員会名簿





※2 「だっこの会」「おはなし会」とは…

蕪崎市立図書館内の“おはなしコーナー”で実施している、事前に申し込みすることなく無料で参加できるイベントです。

だっこの会：毎月第四木曜日11時から11時30分に、主に乳幼児を対象としてわらべ歌、絵本の読み聞かせ、手遊びなどを行っています。

おはなし会：毎月第二土曜日14時から14時30分に、主に乳幼児～小学校低学年を対象として絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどを行っています。

蕪崎市教育委員会生涯学習担当  
Tel 22-1111 (内線266)

どくしょ ちょうさ しょうがくせいよう  
読書アンケート調査《小学生用》

H25年7月

このアンケートは、「蕪崎市子ども読書活動推進計画」づくりのために行うものです。

次の1から5までの質問に答えてください。

- 1 あなたは何年生ですか。学年を書いてください。 ⇒ 小学校( )年生
- 2 あなたは1か月に本を何冊読みますか。(マンガのコミックスや雑誌はのぞきます。学校図書館や市立図書館などで借りる本も合わせて答えてください。) ⇒ ( )冊
- 3-1 あなたは本が好きですか。次の中から1つ選んでください。 ⇒ ( )  
①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえばきらい ④きらい
- 3-2 3-1で①または②と答えた人に質問します。  
あなたは、どのようなことがきっかけで本を好きになりましたか。次の中から3つまで選んでください。  
⇒ ( ) ( ) ( )
- ①友達にすすめられて ②先生の話を書いて  
③家族に読んでもらって ④読み聞かせのボランティアさんに読んでもらって  
⑤学校図書館に行つて ⑥公立(蕪崎市や甲斐市など)の図書館に行つて  
⑦学校の図書だよりを読んで ⑧市立図書館の「Niralian(ニラリアン)」を読んで  
⑨書店に行つて ⑩その他( )
- 4 あなたはどのような本が好きですか。次の中から3つまで選んでください。  
⇒ ( ) ( ) ( )
- ①小説や物語 ②伝記 ③科学読み物 ④絵本  
⑤歴史読み物 ⑥図鑑 ⑦趣味・スポーツ ⑧その他
- 5 あなたは読書の大切さはなんだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。  
⇒ ( ) ( ) ( )
- ①知らないことがわかる ②考える力がつくと ③国語の力がつくと  
④楽しくなる ⑤友達との話題がふえる ⑥その他( )

※ご協力、ありがとうございました。【蕪崎市教育委員会生涯学習担当】

## 読書アンケート調査《中学生用》

H25年7月

このアンケートは、「葦崎市子ども読書活動推進計画」づくりのために実施するものです。  
次の1から5までの質問に答えてください。

- 1 あなたは何年生ですか。学年を書いてください。 ⇒ 中学校（ ）年生
- 2 あなたは1か月に本を何冊読みますか。(マンガのコミックスや雑誌はのぞきます。  
学校図書館や市立図書館などで借りる本も合わせて答えてください。) ⇒ ( )冊
- 3-1 あなたは読書が好きですか。次の中から1つ選んでください。 ⇒ ( )  
①好き ②どちらかというが好き ③どちらかという嫌い ④嫌い
- 3-2 3-1で①または②と答えた人だけに質問します。  
あなたは、どのようなことがきっかけで読書が好きになりましたか。次の中から3つまで選んでください。  
⇒ ( ) ( ) ( )  
①友達にすすめられて ②先生の話を書いて  
③家族に読んでもらって ④読み聞かせのボランティアさんに読んでもらって  
⑤学校図書館に行って ⑥公立(葦崎市や甲斐市など)の図書館に行って  
⑦学校の図書だよりを読んで ⑧市立図書館の「Niralian(ニラリアン)」を読んで  
⑨書店に行って ⑩その他( )
- 4 あなたはどのような本が好きですか。次の中から3つまで選んでください。 ⇒ ( ) ( ) ( )  
①小説や物語 ②伝記 ③科学読み物 ④絵本  
⑤歴史読み物 ⑥図鑑 ⑦趣味・スポーツ ⑧その他
- 5 あなたは読書の大切さはなんだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。  
⇒ ( ) ( ) ( )  
①知らないことがわかる ②考える力がつく ③国語の力がつく  
④楽しくなる ⑤友達との話題がふえる ⑥その他( )

※ご協力、ありがとうございました。 【葦崎市教育委員会生涯学習担当】

---

## 読書アンケート調査《一般用》

平成25年7・8月

このアンケートは、「葦崎市子ども読書活動推進計画」づくりのために実施するものです。  
ご協力くださいますようお願いいたします。

葦崎市教育委員会 生涯学習担当  
(22-1111 内線266)

- 1 あなたは1か月に本を何冊読みますか。(マンガのコミックスや雑誌は除く。公立図書館等で借りる本も合わせて答えてください。)  
( )冊
- 2 あなたは読書の大切さは何だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。( ) ( ) ( )  
①知らないことがわかる ②考える力がつく ③国語の力がつく  
④楽しくなる ⑤友人・知人との話題がふえる ⑥その他( )
- 3 子どもが読書するのは大切だと思いますか。次の中から1つ選んでください。( )  
①とても思う ②思う ③あまり思わない ④全く思わない
- 4-1 あなたは子どもに本を読んであげたことがありますか。次の中から1つ選んでください。( )  
①よくあった ②時々あった ③あまりなかった ④全くなかった

4-2 4-1 で①～③と回答された方に伺います。子どもに本を読んであげたのは子どもがいつ頃までですか。  
次の中から1つ選んでください。( )  
①幼稚園・保育園入園まで ②小学校入学まで ③小学校低学年まで  
④小学校高学年まで ⑤中学生まで ⑥その他( )

4-3 4-1 で①～③と回答された方に伺います。読み聞かせをして良かったと思ったことは何ですか。  
次の中から3つ以内で選んでください。( ) ( ) ( )  
①子どもが喜んだ ②愛情が深まった ③思い出になった ④本好きになった  
⑤感受性が育った ⑥落ち着いた ⑦言葉が発達した ⑧特に無し  
⑨その他( )

4-4 4-1 で①～③と回答された方に伺います。どのような本が喜ばれましたか。  
( )

※ご協力ありがとうございました。

韮崎市小中高等学校図書館読書調査

H25年7月

学校名( ) 小・中・高)  
記入者名( )

1 貴校では、児童・生徒に1回当たり、何冊まで貸し出していますか。( ) 冊)

2 貴校の前年度の児童・生徒数と、1人当たりの年間貸出冊数を教えてください(中・高校は3年生まで)。  
【小数点第二位を四捨五入】

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童・生徒数 (人)							
1人当たりの 年間貸出冊数冊 (冊)							

※児童・生徒数は平成24年5月1日現在(学校基本調査)

3 貸し出される本で人気のある分類は何ですか。(上位3位まで)

- ①0類(総記) ②1類(哲学) ③2類(歴史) ④3類(社会科学)  
⑤4類(自然科学) ⑥5類(技術) ⑦6類(産業) ⑧7類(芸術)  
⑨8類(言語) ⑩9類(文学) ⑪その他(10分類以外のくくりがあれば具体的に)  
1位( ) 2位( ) 3位( ) ※おおよその順位で結構です。

4 貴校では、授業の中で「読書の時間」を設定していますか。

(設定している ・ 設定していない)

5 貴校では、授業以外の時間帯で「読書の時間」(朝読など)を設定していますか。

(設定している ・ 設定していない)

6 問1～5をふまえて、借りる本や学年ごとの特徴・傾向など、お気づきの点があればお書きください。

( )

※ご協力ありがとうございました。(韮崎市教育委員会生涯学習担当・22-1111 内線266)

## 【読書アンケート集計結果】

### 1 保健福祉センターでのアンケート調査〈幼児の保護者対象〉集計結果

(平成25年7月～9月実施 103人から回答)

- 1 韮崎市では、ブックスタート事業を「よちよち教室」(11か月児対象)で実施しています。この事業に参加されましたか。

	1歳6か月	2歳	合計	割合(%)
①参加した	36	53	89	86.4
②参加していない	5	8	13	12.6
③無回答	0	1	1	1
合計	41	62	103	100

- 2 現在、お子さんに読み聞かせをしていますか。

	1歳6か月	2歳	合計	割合(%)
①毎日、または時々している	31	51	82	79.6
②していない	10	11	21	20.4
③無回答	0	0	0	0
合計	41	62	103	100

- 3-1 韮崎市立図書館で子どものために絵本等を借りたことがありますか。

	1歳6か月	2歳	合計	割合(%)
①借りたことがある	15	23	38	36.9
②借りたことがない	26	39	65	63.1
③無回答	0	0	0	0
合計	41	62	103	100

- 3-2 韮崎市立図書館以外の所で借りたことがありますか。(児童館、他の公共図書館等)

	1歳6か月	2歳	合計	割合(%)
①借りたことがある※	4	13	17	16.5
②借りたことはない	37	47	84	81.6
③無回答	0	2	2	1.9
合計	41	62	103	100

※施設名 ・甲斐市の図書館(4人) ・甲斐市立双葉図書館(7人) ・甲斐市立竜王図書館  
 ・甲府市立図書館 ・南アルプス市の図書館 ・南アルプス市立櫛形図書館(2人)  
 ・南アルプス市立八田図書館 ・南アルプス市立白根桃源図書館 ・南部町立図書館  
 ・市外の図書館 ・児童センター

- 4 韮崎市立図書館の「だっこの会」や「おはなし会」に参加したことがありますか。

	1歳6か月	2歳	合計	割合(%)
①ある	8	10	18	17.5
②ない	33	52	85	82.5
③無回答	0	0	0	0
合計	41	62	103	100

- 5 お子さんに絵本の読み聞かせをすることはいいことだと思いますか。

	1歳6か月	2歳	合計	割合(%)
①思う	40	60	100	97.1
②思わない	0	1	1	1.0
③無回答	1	1	2	1.9
合計	41	62	103	100

- 6 5で①と回答された方に伺います。絵本の読み聞かせにどんな効果を期待していますか。  
(複数回答可)

	1歳6か月	2歳	合計	割合(%)
①子どもの感性が育つ	32	47	79	21.0
②子どもが本好きになる	22	33	55	14.7
③子どもの知性が育つ	25	28	53	14.1
④言葉の発達が早くなる	14	18	32	8.5
⑤人の話が聞ける子になる	14	24	38	10.1
⑥子どもの心が落ち着く	8	15	23	6.1
⑦親も楽しめる	9	16	25	6.7
⑧親の心に余裕ができる	2	9	11	3
⑨親子の愛情が深まる	17	38	55	14.7
⑩その他	0	0	0	0
⑪無回答(5で②と回答他)	2	2	4	1.1
合計	145	230	375	100

- 7 子どもの読書活動を推進させるために、行いたいことやあったらよいと思うことをご自由にお書きください。

- ・おはなし会の内容をもう少し充実させた方がよい。(双葉で借りたことがあると回答した保護者)
- ・親子で紙芝居などを見たい。(2人)(葦崎及び他図書館等の利用がないと回答した保護者)
- ・息子が本の読み聞かせや劇を観る時になかなか落ち着いて座っていられず、一緒に楽しめない。どうはたらきかけたらよいのか教えていただける講座があるとよい。
- ・読み聞かせはよいことだと思うが、働いているとなかなか時間がとれない。  
だっこの会・おはなし会も平日が多く、なかなか参加できない。 <\*おはなし会は毎月第2土曜日開催>
- ・仕事をしているため、土・日にいろいろな活動があればいいと思う。
- ・読書はとてもしつこい事だと思う。でも実際そんな時間はない。毎日忙しくてなかなか読んであげられない。なのでTVを見せて、用をしよう。
- ・図書館などで、紙芝居の日(例えば第2土曜日)など、大きな紙芝居で。すごく楽しそうです。
- ・ブックスタートの時に本をいただけることがありがたい。五味太郎の本を好んで読んでいる。(2人)

**2 小中学校でのアンケート調査《小学校5・6年生及び中学校1～3年生対象》集計結果**  
(平成25年7月実施 小学生287人、中学生193人、計480人から回答)

- 1 あなたは何年生ですか。学年を書いてください。

	回答数	割合(%)
⑤小学5年生	141	29.4
⑥小学6年生	146	30.4
⑦中学1年生	68	14.2
⑧中学2年生	61	12.7
⑨中学3年生	64	13.3
合計	480	100

2 あなたは1か月に本を何冊読みますか。(冊数記入)

	総回答数	割合 (%)	小学生計	割合 (%)	中学生計	割合 (%)
①0冊	19	4.0	1	0.3	18	9.3
②1~2冊	83	<b>17.3</b>	15	5.2	68	<b>35.2</b>
③3~4冊	48	10	18	6.3	30	<b>15.5</b>
④5~6冊	65	13.5	37	12.9	28	<b>14.5</b>
⑤7~8冊	26	5.4	18	6.3	8	4.2
⑥9~10冊	62	13.0	41	<b>14.3</b>	21	11.0
⑦11~20冊	83	<b>17.3</b>	71	<b>24.7</b>	12	6.2
⑧21冊以上	89	<b>18.5</b>	82	<b>28.6</b>	7	3.6
⑨無回答	5	1.0	4	1.4	1	0.5
合計	480	100	287	100	193	100

3-1 あなたは本が好きですか。(1つだけ選択)

	総回答数	割合 (%)	小学生計	割合 (%)	中学生計	割合 (%)
①好き	215	44.8	145	50.5	70	36.3
②どちらかといえば好き	182	37.9	112	39.0	70	36.3
③どちらかといえばきらい	66	13.8	28	9.8	38	19.7
④きらい	17	3.5	2	0.7	15	7.7
⑤無回答	0	0	0	0	0	0
合計	480	100	287	100	193	100

3-2 【3-1で①または②と答えた人に質問】

あなたは、どのようなことがきっかけで本を好きになりましたか。(3つまで選択)

	総回答数	割合 (%)	小学生計	割合 (%)	中学生計	割合 (%)
①友達にすすめられて	142	<b>12.6</b>	90	<b>12.4</b>	52	<b>13.1</b>
②先生の話をして	39	3.5	34	4.7	5	1.3
③家族に読んでもらって	53	4.7	32	4.4	21	5.3
④読み聞かせのボランティアさんに読んでもらって	28	2.5	25	3.4	3	0.7
⑤学校図書館に行つて	251	<b>22.3</b>	171	<b>23.6</b>	80	<b>20.1</b>
⑥公立(韮崎市や甲斐市など)の図書館に行つて	122	10.9	86	11.8	36	9.0
⑦学校の図書館だよりを読んで	79	7.0	58	8.0	21	5.3
⑧市立図書館の「ニラリアン」を読んで	10	0.9	8	1.1	2	0.5
⑨書店に行つて	245	<b>21.8</b>	151	<b>20.8</b>	94	<b>23.6</b>
⑩その他※	75	6.7	43	5.9	32	8.0
⑨無回答(③④の回答者)	80	7.1	28	3.9	52	13.1
合計	1124	100	726	100	398	100

※「その他」の回答

- ・気がついたら(小5)
- ・時間があって暇な時読んで(2人)(小5、中1)
- ・小さいころから(5人)(小5・6、中1・3)
- ・家族が買って来て(3人)(小5、中1)
- ・家族に薦められて(3人)(小5・6)
- ・友達が読んでいた(2人)(小5・6)
- ・家に本があった(4人)(小6、中1・3)
- ・自分で(2人)(小6)
- ・勉強に歴史などが始まった(小6)
- ・読んでいたら自然に(小6)
- ・物語が楽しいから(小5)
- ・動画をやっている人に薦められて(小5)
- ・本を100冊借りたから(小5)
- ・ふつうに(好きに)なった(小6)
- ・インターネットで本のレビュー等を見て(4人)(小6、中3)
- ・兄弟が面白い本を読んでいたので(中2)
- ・現実逃避できるから(中3)
- ・ライトノベルを買って(中3)
- ・読んだ本が面白くて(2人)(小5・6)
- ・友達から借りてくれとたのまれて(小5)
- ・感想文で(2人)(小5、中1)
- ・教室に図書室の本が届いて(小6)
- ・もともと好きだから(3人)(小5・6、中3)
- ・幼稚園のころから(小5)
- ・本を調べていて(小5)
- ・絵がかわいいから(小5)
- ・静かだから(小5)
- ・漢字を覚えたりできる(小5)
- ・なんとなく(小5)
- ・テレビで見て(5人)(小5、中1・3)
- ・好きなアニメが本になったから(中1)
- ・映画になったから(中1)
- ・図書館にある広告を見て(中1)
- ・面白い本を見つけたから(中2)
- ・ぱっと見て感動して(中3)
- ・自分だけの世界を作れるから(中3)
- ・読んでみたい本があって(小5)
- ・漫画や天気の本などを見て(小5)
- ・興味を持つものがたくさんあったから(小6)

4 あなたはどのような本が好きですか。(3つまで選択)

	総回答数	割合(%)	小学生計	割合(%)	中学生計	割合(%)
①小説や物語	315	<b>25.6</b>	200	<b>25.6</b>	115	<b>25.7</b>
②伝記	115	9.4	54	6.9	61	<b>13.6</b>
③科学読み物	108	8.8	72	9.2	36	8.0
④絵本	92	7.5	61	7.8	31	6.9
⑤歴史読み物	133	10.8	95	<b>12.2</b>	38	8.5
⑥図鑑	90	7.3	67	8.6	23	5.1
⑦趣味・スポーツ	235	<b>19.1</b>	142	<b>18.2</b>	93	<b>20.8</b>
⑧その他*	141	<b>11.5</b>	90	11.5	51	11.4
⑨無回答	0	0	0	0	0	0
合計	1229	100	781	100	448	100

\*「その他」についての自由記述欄は無し。

5 あなたは読書の大切さは何だと思いますか。(3つまで選択)

	総回答数	割合(%)	小学生計	割合(%)	中学生計	割合(%)
①知らないことがわかる	335	<b>25.8</b>	212	<b>26.3</b>	123	<b>25.0</b>
②考える力がつく	285	<b>22.0</b>	179	<b>22.2</b>	106	<b>21.6</b>
③国語の力がつく	208	16.0	111	13.8	97	19.8
④楽しくなる	277	<b>21.4</b>	174	<b>21.6</b>	103	<b>21.0</b>
⑤友達との話題がふえる	163	12.6	110	13.7	53	10.8
⑥その他 ※	24	1.9	17	2.1	7	1.4
⑦無回答	4	0.3	2	0.3	2	0.4
合計	1296	100	805	100	491	100

※「その他」の回答

- ・スッキリする
- ・うれしくなる(小6)
- ・見えない学力がつく(小6)
- ・自分だけの世界に入れる(小5)
- ・想像力がつく(3人)(小6・中1)
- ・いろいろな言葉がわかる(小5)
- ・自分の世界が広がる(中3)
- ・難しい言葉がわかる(小5)
- ・自分のためになる(小5)
- ・漢字を覚えられる(2人)(小5・6)
- ・わくわくする(小6)
- ・笑顔になれる(中3)

③ 市立図書館での読書アンケート調査《一般用》集計結果

(平成25年7月～9月1日実施 計105人より回答)

1 あなたは1か月に本を何冊読みますか。(冊数記入)

	回答数	割合(%)
①0冊	13	12.4
②1～2冊	34	32.4
③3～4冊	13	12.4
④5～6冊	12	11.4
⑤7～8冊	6	5.7
⑥9～10冊	15	14.2
⑤11～20冊	5	4.8
⑦21冊以上	5	4.8
⑧無回答	2	1.9
合計	105	100



2 あなたは読書の大切さは何だと思いますか。(3つまで選択)

	回答数	割合(%)
①知らないことがわかる	80	27.0
②考える力がつく	71	24.0
③国語の力がつく	42	14.2
④楽しくなる	63	21.3
⑤友人・知人との話題がふえる	26	8.8
⑥その他 ※	14	4.7
合計	296	100

※「その他」の回答

- 想像力がつく(3人)
- 調査ができる
- 元気がでる
- 登場人物になって話を楽しめる
- 気持ちが落ち着く
- 夢がふえる
- 豊かになる
- 知識

3 子どもが読書するのは大切だと思いますか。(1つだけ選択)

	回答数	割合(%)
①とても思う	79	75.2
②思う	23	21.8
③あまり思わない	1	1.0
④全く思わない	1	1.0
⑤無回答	1	1.0
合計	105	100

4-1 あなたは子どもに本を読んであげたことがありますか。(1つだけ選択)

	回答数	割合(%)
①よくあった	50	47.6
②時々あった	36	34.3
③あまりなかった	7	6.6
④全くなかった	11	10.5
⑤無回答	1	1
合計	105	100

4-2 【4-1で①～③と回答した人が対象】

子どもに本を読んであげたのはいつ頃ですか。(1つだけ選択)

	回答数	割合(%)
①幼稚園・保育園入園まで	30	32.3
②小学校入学まで	23	24.7
③小学校低学年まで	20	21.5
④小学校高学年まで	4	4.3
⑤中学生まで	0	0
⑥その他 ※	11	11.8
⑦無回答	5	5.4
合計	93	100

※「その他」の回答

- 現在継続中(0歳2人、1歳2人、園児1人、小学校低学年2人、不明4人)

4-3 【4-1で①～③と回答した人が対象】

読み聞かせをして良かったと思ったことは何ですか。(3つまで選択)

	回答数	割合(%)
①子どもが喜んだ	73	31.1
②愛情が深まった	27	11.5
③思い出になった	18	7.7
④本好きになった	50	21.3
⑤感受性が育った	24	10.2
⑥落ち着いた	9	3.8
⑦言葉が発達した	22	9.3
⑧特に無し	3	1.3
⑨その他 ※	5	2.1
⑩無回答	4	1.7
合計	235	100

※「その他」の回答

- ・気持ちに感じる読み方をするようになった
- ・自分が楽しかった
- ・0歳児なのでまだよくわかってないかも
- ・知識が増えた
- ・本の内容をよく覚えていた

4-4 【4-1で①～③と回答した人が対象】

どのような本が喜ばれましたか。(自由記述)

●主に分野、種類等で回答

- ・冒険の話 ・恐竜 ・日本の昔話(5人) ・昔話(3人)
- ・絵本(6人) ・絵本(ことばのおもしろさが感じられるものなど)
- ・絵本(くり返しの言葉がでてくるような) ・言葉が少ない本
- ・色がきれいな本 ・色のはっきりした絵本 ・リズムのよい本
- ・童話(9人) ・伝記物語、偉人伝(3人) ・歴史書 ・グリム、アンデルセン
- ・サイエンス系 ・昆虫の本(2人)、なぜなぜ(2人) ・動物の出てくるお話(5人)
- ・写真付きの動物や車の本 ・夢のある作品 ・子どもにとってわかりやすい絵本 ・おもしろい本
- ・親子の話 ・名作 ・物語 ・ファンタジー ・物語的なもの、生活習慣的なもの
- ・岩波少年少女文学全集 ・昔から読まれている本
- ・一緒にさがしたり、クイズになっている本、おぼけの本 ・怪談
- ・言葉の響きが美しく、幻想的なもの。「銀河鉄道の夜」など。
- ・1日1話の読み聞かせの本 ・子ども向けの本

●主に具体的な書名、著者名で回答

- ・楽しくなる話で、かがくいひろしの本 ・「カラスのパンやさん」「たまごにいちゃん」(2人)
- ・「ねずみの兄弟の絵本」「ももんちゃん」シリーズ(3人)、「ノンタン」シリーズなど。
- ・サウンド・オブ・ミュージック ・おならうた ・アンパンマン(5人)
- ・はらぺこあおむし ・だんごムシ ・白いうさぎと黒いうさぎ
- ・いないいないばあ(5人) ・いいおかお、のせてのせて
- ・がたんごとん、くだもの、くつくつあるけ、バムとケロシリーズ、ホネホネさん、おいしいのぼうけん
- ・ねこちゃんのしゃっくり、火垂るの墓 ・赤いながぐつ、わくわくクッキング
- ・よるくま、わたしのワンピース、いつもいっしょに…
- ・もこもこもこ、こんとあき、三びきのやぎのがらがらどん
- ・ツリーハウス ・いもとようこの本 ・ピーターラビット ・「かいけつゾロリ」シリーズ
- ・くもの糸 ・路傍の石

●子どもが主体の選書

- ・子どもに選んでもらい、今日はこんな気分なんだと、本を見てこちらが感じることはあった
- ・子どもが「読んで」と言った本 ・子どもが自分で借りた本 ・子どもが好きな本
- ・子どもの興味がある登場人物が出てくる絵本等
- ・「おかあさんが自分の為だけに読んでくれる」が大きいようで、何の本でも喜んだ。

4 韮崎市小中高等学校図書館読書調査 集計結果  
(平成25年7月実施 9校より回答)

1 貴校では、児童・生徒に1回当たり、何冊まで貸し出していますか。

学校種別	小学校(5校)	中学校(2校)	高等学校(2校)
平均冊数	1.2冊	2冊	4冊

2 貴校の前年度の児童・生徒数と、1人当たりの年間貸出数を教えてください。

学校種別	小学校(5校)	中学校(2校)	高等学校(2校)
児童・生徒数合計(人)	1,703	967	1,354
1人当たりの 年間貸出冊数(冊)	89.5	26.2	5.3

3 貸し出される本で人気のある分類は何ですか。(上位3位まで。番号記入)

学校種別	小学校(5校)	中学校(2校)	高等学校(2校)
1位	⑩9類(文学)	⑩9類(文学)	⑩9類(文学)
2位	⑤4類(自然科学)	⑧7類(芸術)	⑧7類(芸術)
3位	③2類(歴史) ⑤4類(自然科学)	②1類(哲学) ⑤4類(自然科学)	③2類(歴史) ⑥5類(技術)

4 貴校では、授業の中で「読書の時間」を設定していますか。(しているは○、していないは×)

学校種別	小学校(5校)	中学校(2校)	高等学校(2校)
設定の可否	○	×	×

・小学校5校のみ設定している。

5 貴校では、授業以外の時間帯で「読書の時間」(朝読など)を設定していますか。  
(しているは○、していないは×)

学校種別	小学校(5校)	中学校(2校)	高等学校(2校)
設定の可否	○	○	○

・9校とも設定している。

6 問1～5をふまえて、借りる本や学年ごとの特徴・傾向など、お気づきの点があればお書きください。(自由記述)

- (1) 小学校
- ・先生方による読み聞かせ本や紹介された本は、子どもたちもよく手にし、借りていく。
  - ・低学年は絵本、中学年は自然科学や工作系、高学年は文学の他に興味・関心のある分野の本が貸し出される傾向にある。
  - ・授業の中の「読書の時間」を利用している学年と、あまり地用していない学年では、貸出冊数に差がでている(休み時間に本を借りない児童は、「読書の時間」にしか本を借りないため)。
  - ・「読書の時間」や「朝読」の時間は読み物を読んでいる。
  - ・長期休業中に親子で本に親しんでもらうために、家読に取り組んでいる。
  - ・人気の2位・3位に入っている7類(スポーツ・なぞなぞ)・4類(図鑑類)を、技術向上や探究のために借りていく傾向にある。
  - ・高学年になると、借りる児童と借りない児童の差ははっきりしてくる。
  - ・テレビ番組やゲームから書籍化されるものに人気が高い。
- (2) 中学校
- ・1年生はたくさん借りるが、2年・3年と学年が上がるにつれ忙しくなり、休み時間を取るのが難しくなるので、借りる冊数も減っていく。
  - ・人気のある分類では文学が多いが、部活動に関連する本(吹奏楽・サッカー・バスケット等)のある7類や、人生訓・悩み相談・名言集等のある1類が多く借りられている。
  - ・学年が上がるにつれ、生徒1人当たりの貸出冊数が減る傾向にある。
- (3) 高校
- ・3年生は進路に関する本(職業、時事問題、小論文の書き方など)を借りに来る生徒が多い。
  - ・工業高校では、貸出して人気のある分類の3位に、5類(技術)が入っている。蔵書数も、人気のある順に(文学→芸術→技術)多く所蔵している。

## 子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成十三年十二月十二日法律第百五十四号)

(目的)

**第一条** この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

**第二条** 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

**第三条** 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

**第四条** 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

**第五条** 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

**第六条** 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

**第七条** 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

**第八条** 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。  
(都道府県子ども読書活動推進計画等)

**第九条** 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。  
(子ども読書の日)

**第十条** 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。  
(財政上の措置等)

**第十一条** 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

## 附 則

この法律は、公布の日から施行する。

韮崎市教育委員会訓令乙第3号

韮崎市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条第2項の規定に基づき、韮崎市子ども読書活動推進計画（以下「推進計画」という。）を策定するため、韮崎市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 策定委員会は、推進計画策定のために必要な事項を協議し、その結果を韮崎市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に報告する。

(組織)

第3条 策定委員会は、委員10人以内で組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者
- (4) その他市長が適当と認める者

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、この要綱に基づき委嘱された日から推進計画が策定されたときまでとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 策定委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員のうちから互選する。

- 2 委員長は、策定委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 策定委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことはできない。
- 3 策定委員会は、特に必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 策定委員会の事務は、教育課において処理する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年9月1日から施行する。

# 韮崎市子ども読書活動推進計画策定委員会委員名簿

任期 平成25年10月1日～平成26年3月31日

策定委員会 での役職	氏名	選出区分	所属	役職
副委員長	牛山 正司	学校教育の関係者	韮崎市小中学校長会	会長
	有井 明		韮崎市教育研究会 教育課程部会	部長
	輿石 幸子		韮崎市教育研究会 学校図書部会	部長
委員長	小林 能行	社会教育の関係者	公民館連絡協議会	会長
	横森 保元		社会教育委員の会	会長
	矢崎 昭彦		青少年育成推進員連絡 協議会	会長
	阿部 わかな	家庭教育の向上に 資する活動を行う者	韮崎市保育所保護者連 合会	会長
	松本 恵子		NPO 法人子育て支援セ ンターちびっこはうす	副理事長
	小澤 かなめ	学識経験のある者	文化協会読書部	部長

## 事務局

韮崎市 教育委員会	教育長	矢巻 令一
	教育課長	神谷 壯一
	教育課長補佐 生涯学習担当	仲澤 俊彦
	生涯学習担当	望月 佐知恵
	生涯学習担当	小倉 利仁
	生涯学習担当	中村 貴代美

韮崎市立 図書館	図書館長	平賀 進
	チーフ	鈴木 礼子

